

題目	キューバの歩み		
氏名	木村 勇大	(学籍番号 150781200)	指導教員 稲葉千晴

## はじめに

キューバの対外政策においてしばしばみられる特徴は、大国が小国を支配しようとする動きに対する反発である。こうした特徴は、米国との歴史的関係によって形成されてきた。キューバと米国は、2015年バラク・オバマ政権時代に国交が回復した。2017年にドナルド・トランプが大統領に就任し、再びキューバへの制裁を強化した。2020年米大統領選ではジョー・バイデンが当選を確実にした。本稿ではキューバの発見から独立、現在までの歩みを辿っていく。

### 第1章 キューバ革命以前の歴史

1492年10月、キューバは発見され、スペインの植民地となった。その支配は19世紀末まで続いた。1868年から独立戦争が始まり、米国の介入もあって1902年5月にキューバ共和国が正式に発足した。1934年に、米国の砂糖輸出入の調整である砂糖割当法が導入された。1930年代から50年代にかけて改良主義の時代と呼ばれ、政権交代が続いた。1952年、フルヘンシオ・バティスタがクーデターにより大統領に就任する。

### 第2章 キューバ革命の始まり

1953年7月モンカダ兵営襲撃が発生した。襲撃は失敗し、フィデル・カストロらは収監される。55年5月カストロらは釈放された。7月にメキシコ市に到着する。56年11月メキシコからキューバへ出航、12月にキューバに漂着し戦闘が発生した。戦闘に勝利し、根拠地を獲得した。58年5月カストロが反乱軍総司令に就任する。59年1月バティスタが国外へ逃亡し、革命が達成された。新政権が発足し、2月にカストロが首相に就任した。5月、農業改革法が成立し、60年4月に米大手農場が接収された。8月から10月にかけて米系企業・国内大企業の国有化が行われた。61年1月米国はキューバとの国交を断絶した。5月、カストロはキューバ社会主義宣言を発表した。

### 第3章 革命後のキューバ

1962年10月ミサイル危機が発生し、核戦争一歩手前の状態になっていた。米国がソ連の提案を受け入れる形でミサイル危機は終了した。勝手な米ソ合意により、ソ連キューバ間の関係は冷却した。1972年に社会主義諸国の経済協力機構に加盟した。砂糖モノカルチャーが強化され、食糧・工業製品も社会主義圏からの輸入に依存することになった。1986年4月カストロは演説で、国内での不正の蔓延を指摘した。演説後、全国で不正や政治腐敗が露呈した。1990年の両ドイツ統一により、東欧諸国は対キューバ貿易をほぼ全面的に停止した。

### 第4章 21世紀のキューバ

1991年12月ソ連が解体し、キューバは厳しい経済危機に見舞われた。1990年代には新憲法の制定や一般市民の外貨所有合法化、新外国投資法が制定された。成長よりも平等を追求し続けたキューバ社会の現状は、大多数の国民が基礎的生活物資の欠乏に苦しむ緊縮経済である。2015年7月には米国との外交関係が復活した。米国が対キューバ関係改善に踏み切ったのは、米国の国際的孤立のためである。市場経済化の進行とともに、貧困や所得格差の拡大、人種差別や性差別の復活など新たな問題が発生している。

### 今後の展望

キューバと米国のこれからの関係には2つの意見が存在する。第一は、バイデン新政権はキューバへの経済制裁を緩和するという意見である。第二は、強硬な姿勢で制裁を続行するという意見である。私は前者に賛同する。国交回復により両国間の緊張緩和や、流通や観光の発展によりキューバ経済が上向くことが期待できるからである。